

令和4年度 授業改善推進プラン〈1年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○授業内での英語によるコミュニケーションの頻度を増やした。

→英語でのやり取りを楽しみ積極的に英語を使用しようと臨む生徒が多い一方で、英語使用に対して抵抗感がある生徒も一定数いた。

○コミュニケーションを行う目的や場面、状況を掲示し、それに応じてアウトプットする機会を与えた。

→あらかじめ準備ができるスピーチ活動などでは内容だけでなく伝達方法にも工夫をすることができた生徒が多い一方で、即興性が求められるインタビュー活動などでは知識・技能の定着がさらに求められた。

○自己調整させることを目的として自己評価の機会を定期的に提供した。

→自分自身の英語学習を振り返る習慣ができた一方で、その改善点を次の行動に結びつけることに課題を感じた。

英語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<p>○全分野において達成率が高く、昨年度までの学習効果は良好な状況であると考えられる。</p> <p>○聞く領域の問題は概ね達成率が高かったが、昨年度と比較するとアルファベットの音声を聞き活字の文字を正しく書く問題において達成率が下がった。場面や状況から内容を予測して聞くことも大事であるが、一つ一つの音素を正しく聞き取る練習をすることでより一層安定したリスニング力が身につくと考えられる。</p> <p>○読む領域の問題は全体的に達成率が高かった。今後もインプット量を重視した指導を行いたい。</p> <p>○書く領域の問題は概ね達成率が高かったが、資料から自分の思い出に残っている行事を書き写す問題において達成率が少し低かった。自分の書いたものが正しい英語かどうかを文法や語彙の知識を活用して確認する習慣を身につけさせたい。</p>
観点別の結果分析	<p>○「知識・技能」について、全体的に達成率は高く、昨年度よりも達成率の高い項目が多かった。今後も新規文法・語彙の指導に努めたい。</p> <p>○「思考・判断・表現」について、概ね達成率は高かったが、「表現」の観点において昨年度より達成率が少し下がった。英語を用いて自己表現する機会をたくさん提供したい。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」について、概ね達成率は高かった。今後も主体性を継続できるような工夫を考え取り組ませたい。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 文法・語彙の知識・理解をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
  - 英語がコミュニケーション・ツールであることを実感させるために、授業内での英語によるコミュニケーションの頻度を増やし、実際に英語を使用させる機会を多く提供する。
  - 定期的に多読活動に取り組み英語を訳さずに英語のまま理解するトレーニングを積むことで、明示的知識へと変換しレスポンス力向上を目指したい。
- 思考力・判断力・表現力を高める。
  - 場面設定に基づき、必要な情報・概要・要点を把握し整理しまとめる機会を多く提供する。
  - コミュニケーションを行う目的や場面、状況を掲示し、正確性のみでなく流暢性にも重きを置いてアウトプットさせる。
  - 和文英訳のみでなく既習文法事項を用いて自由に自己表現する機会を提供する。
- 主体的に取り組む態度を育む。
  - 自分自身の英語学習を自己調整させるために、定期的に自己評価させる。また自分自身の習熟度を把握させるために、定期的に小テストや単語テストを実施する。
  - 将来の生活やキャリアにおいて自分自身が英語を使用する姿を思い浮かべられるよう、海外で活躍する日本人について紹介したり、第二言語学習者としてのモデルとなる姿勢を示したりする。

令和4年度 授業改善推進プラン〈2年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- コミュニケーション活動を毎授業取り入れることを心掛けた。また、学期に1回パフォーマンステストを実施した。また英語を書いたり読んだりする機会をたくさん提供した。→英語学習に対して高い関心を示す生徒が多いなか、関心を示さない生徒も一定数いた。
- あらかじめ準備ができるスピーチなどには積極的に取り組めた。しかし、即興で英語を話したり書いたりするのは依然として苦手と感じている生徒が多い。
- リスニングのテストは単元ごとに、単語テストは毎月実施した。→基礎内容が定着しつつある生徒が増えてきているので、その知識をベースにして思考判断し、表現できるように指導していく必要がある。
- 教材の内容に関心をもちせたり、自身の身の回りのことと比較したりすることも授業に取り入れた。→その内容に関して知識・理解が深まる生徒もいた。今後も継続して指導していきたい。

英語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<p>○全分野において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は概ね良好な状況であると考えられる。</p> <p>○聞く領域の問題は全て目標値を超えており、基礎知識だけでなく、それを活用する力も概ね定着していると言える。</p> <p>○読む領域の問題も全て目標値を超えているが、内容に合わせた語形・語法の問題では、全国正答率を下回るものもあり、文法を復習する必要がある。</p> <p>○書く領域の問題もほとんど目標値を大きく上回っている。しかし疑問詞を含む疑問文の問いでは正答率は高かったものの目標値を下回ったので、今後の授業内の活動で定着させていく必要がある。</p>
観点別の結果分析	<p>○「知識・技能」について、全体的に正答率は高かったが、目標値に近かったりやや下回ったりした問いは全てこの観点であったので、文法や語彙の復習が必要である。</p> <p>○「思考・表現・判断」について、どれも目標値だけでなく全国正答率をも上回っているため、これを持続できるように今後も授業内の取組を充実させたい。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」についても、どれも目標値だけでなく全国正答率をも上回っているため、これを持続できるように今後も授業内の取組を充実させたい。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
  - 身近な話題を取り上げ、ていねいな授業を心がける。特に少人数授業を導入しているため、生徒一人ひとりの理解を確認しながら授業を進める。
  - スパイラル状の英語学習を心掛け、既習内容に何度も触れることのできる指導を意識する。
  - 音読を重視することで音声面も大事にする態度を育む。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
  - 必要な情報や概要・要点を把握し、それを整理する機会を多く提供する。
  - インプット量を調整しながら、多読・多聴に取り組む。
  - コミュニケーションを行う場面や状況を設定し、インプットと同様にアウトプットする機会も与える。
  - 構成を意識してまとまりのある文章を書けるように指導する。
- 3 主体的に学習に取り組む態度を育む。
  - 自身の学習を自己調整できるように、各活動の際には自己評価をさせる。
  - 異文化理解の機会を提供し、自国以外の文化に対して積極的な態度を育む。

令和4年度 授業改善推進プラン〈3年英語〉

英語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 単元の終わりに単元テストを実施した。 → 基礎内容が定着してきただけでなく、生徒が自ら学習をする機会となった。今後は語彙力の伸長に重点を置いていく。
- 帯活動として1分間英会話を毎回取り入れた。 → 英語学習に対する意欲に生徒間の差があることは以前と変わらないが、反復して行うことにより意欲的に取り組む生徒が増えた。
- 自己の学習状況を振り返る機会を多く提供した。 → 生徒が各々の学習状況を把握できた一方で、それを以後の学習の改善につなげることに課題が残った。

英語科における調査結果の分析

内容	<p>○全分野において目標値を上回り、昨年度までの学習効果は概ね良好な状況であると考えられる。</p> <p>○聞く領域の問題については良好な結果ではあったが、対話文の最後の適切な応答を選ぶ問題の正答率が伸びなかった。授業内で取り組ませることで、力を伸ばしていく必要がある。</p> <p>○読む領域の問題については正答率が非常に高かった。今後は授業内、定期試験で英問英答の問題などを取り入れることで、より正確に文章を読み込む力を伸ばしていきたい。</p> <p>○書く領域の問題については、指示に沿って英文を書き換える問題の正答率が低かったため、文法事項を正確に理解させるために、よりわかりやすい授業展開を心がける必要がある。またテーマに沿って英文を書く問題の正答率がかなり低かった。特定の文法項目に限らず、これまで学んだ文法項目も取り入れた総合的な力をつけられるように、授業での活動を改善したい。</p>
観点	<p>○「知識・技能」については、特に単元テストの正答率が非常に低く、中でも単語のスプリングに大きな課題が残り、授業で内容を定着し切れていないことがうかがえた。定期的に単語テストを行うことで、定着を促していく必要がある。</p> <p>○「思考・判断・表現」については、ALTとの会話テストが特に良好な結果となった。11月の中学校英語スピーキングテストに向けて、より正確な表現力を身につけさせたい。一方で英文を書く力には課題が見られるため、正確な英文を書く力を授業内で伸ばしていく必要がある。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」についてはおおむね良好な結果となったが、より適切な評価にするために、評価材料を増やしていく必要がある。</p>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 文法・語彙の知識をさらに深め、それらを活用して表現する技能を高める。
  - 授業内でのアクティビティと十分なパターンプラクティスを通して、より正確な知識を身につける。
  - 学んだことがその場限りの知識で終わらないよう、繰り返し既習内容に触れる機会を提供する。
  - 語彙力を高めるために単語を多く書く活動や単語テストなどを定期的に取り入れる。
- 2 思考力・判断力・表現力を高める。
  - 場面やテーマに沿った会話が即興でできるよう、毎回の授業で行っている1分間英会話を引き続き行い、表現力を高めていく。また生徒が「言いたくも言えなかった・わからなかった」表現をリストアップし、フィードバックしていく。
  - 教科書の内容を中心にライティングのテーマを与えて英文を書く機会を提供し、正確に書く力を伸ばす。
- 3 主体的に学習に取り組む態度を育む。
  - 自分自身の学習状況を調整させるために、自己評価の機会を多く提供する。
  - 教科書のテーマを中心に、異文化に関する様々な情報を伝えていくことで、生徒が自ら知ろう・学ぼうとする意欲を引き出し、自国以外のものごとに興味を持たせる。